

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : エスクリーン S-800

会社名 : 佐々木化学薬品株式会社

住所 : 〒607-8225 京都市山科区勸修寺西北出町10

担当部門 : 技術課

担当者名 : 村上 一也

電話番号 : (075)581-9141

FAX 番号 : (075)593-9784

2. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : 脂肪族低級メルカプタン

含有量 : 脂肪族低級メルカプタン 25%

化学特性(示性式) : 非公開

官報公示整理番号 : 既存

(化審法・安衛法)

CAS No. : 非公開(登録済)

3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性 : 人体に対して刺激性がある。

有害性 : 眼、皮膚に対して刺激することがある。

蒸気の吸入は鼻、喉、気管を刺激することがある。

経口摂取すると悪心、嘔吐、腹痛等を起こすことがある。

環境影響 : データなし

物理的及び化学的危険性 : 本製品は不燃性であり、特に危険性はない。

高濃度の酸化剤と接触により発火することがある。

分類の名称 : 分類基準に該当しない。

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに被災者を新鮮な空気のある場所に移動させる。

体を毛布等で覆い保温して安静にさせ、鼻をかませ、うがいをさせる。呼吸が停止しているときは、衣服を緩めて呼吸気道を確保したうえで人工呼吸を行い、呼吸困難のときは酸素吸入を行う。速やかに医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類や靴等を脱がせ、付着または接触部分を多量の水または石鹸を用いて十分に洗い流す。外観に変化がみられたり、痛みや炎症が生じた場合は、速やかに医師の処置を受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で少なくとも15分間以上は洗眼し、速やかに眼科医の処置を受ける。洗眼の際には指でまぶたを開いて眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。

飲み込んだ場合：被災者を毛布等で覆い保温して安静にさせる。
意識が明瞭なときは被災者を元気づけ、水で口内をよく洗わせした後、多量の水または食塩水を飲ませて吐かせる。意識がない場合は何も与えてはならない。
速やかに医師の処置を受ける。

応急措置をする者の保護：救助者が有害物質に触れないよう、保護眼鏡や保護手袋等の保護具を着用するなどの注意をする。

5. 火災時の措置

- 消火剤：本製品自体は燃焼しない。
本製品を巻き込んだ周辺火災に適切な消火剤を使用する。
- 特定の消火方法：火災発生場所周辺は関係者以外の立ち入りを禁止し、安全な場所に退去させる。
不燃性であるが、周辺火災の場合は、容器を速やかに安全な場所へ移す。
移動が不可能な場合は容器および周辺に散水して冷却する。
消火放水等により環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
- 特定の危険有害性：本製品は分子中にSを含有し、火災時には分解して有毒な硫酸化物ガスを発生するため、煙を吸入しないように注意する。
- 消火を行う者の保護：作業の際には必ず適切な保護具を着用する。
消火活動は可能な限り風上から行い、有毒なガスを含む煙の吸入を避けるため、眼、鼻、口を覆う保護具を着用することが望ましい。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項：風下の人を退避させる。必要があれば水で濡らした手拭い等で口、鼻を覆う。
漏出場所周辺にロープを張る、警告を発するなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
換気を充分に行い、風上から作業を行う。風下で作業をしない。
作業の際には必ず保護具（保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、保護衣等）を着用する。
- 環境に対する注意事項：流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を与えないように注意する。
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。

除去方法

- 少量の場合：紙、布等で拭き取る、乾燥砂、土砂等に吸着させて取り除くか、多量の水で十分に希釈して洗い流す。
- 大量の場合：盛土で囲って流出を防止し、これらに吸着させる等して密閉できる空容器にできるだけ回収する。残分は多量の水で洗い流す。
濃厚な排液が河川等に排出されないように注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策：
- ・眼、皮膚、衣類等との接触、また、蒸気の吸入を避ける。
 - ・作業時には必要に応じて適切な保護具を着用する。
(保護眼鏡または顔面シールド、保護手袋、保護長靴、保護衣等)
 - ・取扱いは換気の良い場所で行うのが望ましい。換気の悪い場所では蒸気を吸入しないよう対策を講じる。
 - ・蒸気の発生をできるだけ抑える。みだりに発生させない。
 - ・蒸気が発生する場所ではこれらの滞留を避けるため、装置の密閉化、もしくは排気装置等により汚染空気を排除する等の措置を講じる。
 - ・衣類、履物の隙間から飛沫等が入り込まないように、開口部は密閉する。
 - ・取扱い場所付近に、緊急時の洗眼及び身体洗浄のための設備を設置し、その位置を明瞭に表示する。
 - ・容器を破損しないように充分注意して取り扱う。容器の栓や口を持って取り扱わない。また、容器をみだりに転倒させる、衝撃を加える、引きずる等の乱暴な取扱いはしない。
 - ・金属類、酸化性物質、有機過酸化物等とは離れた場所で取り扱う。
 - ・取扱い後は手洗い、洗眼、うがいを充分に行う。使用した保護具は必ず水洗、乾燥を行う。作業着に付着した場合は直ちに着替えを行い、水洗、乾燥する。

注意事項：蒸気が発生するおそれがある場合は局所排気内、または全体換気設備のある場所で取り扱う。

安全取扱い注意事項：酸化性物質との接触を避ける。
金属類と反応するため、適切な材質を選択する。
鉄等を錆びさせるため、設備には防錆加工が望ましい。

保管

適切な保管条件：

- ・必ず密栓をして、直射日光、高温多湿を避け、通風のよい冷暗所に保管する。
- ・ボイラー等熱源のある場所、換気の悪い場所、地下室には保管しない。
- ・金属類、酸化性物質、有機過酸化物等とは隔離して保管する。

安全な容器包装材料：金属と反応するため、取扱い時の材質に注意する。
ポリエチレン、ポリプロピレン、テフロン等の樹脂系材質、ガラスは耐久性がある。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：蒸気が発生する取扱い場所では、発生源の密閉化または局所排気装置を使用する。
取扱い場所付近には、緊急時の洗眼及び身体洗浄用設備を設置し、位置を明瞭に表示する。

管理濃度：設定されていない

許容濃度：日本産業衛生学会 設定されていない
A C G I H 設定されていない

保護具

呼吸用の保護具：必要に応じて有機ガス用防毒マスクを着用する。

手の保護具：不浸透性保護手袋

眼の保護具：保護眼鏡(側板付普通眼鏡、ゴーグル型等)

皮膚及び身体の保護具：保護衣(長袖作業衣)、保護長靴、前掛け等

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形 状 : 液体
色 : 蛍光黄緑色透明
臭 い : 特異臭
pH : 8.3 (25℃)

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

沸 点 : 約100℃

引 火 点 : 不燃性である。

密度(比重) : 1.10 (20℃)

溶解度

溶媒に対する溶解性 : 水と自由に混和する。

10. 安定性及び反応性

安 定 性 : 空气中で徐々に酸化される。鉄、銅等の金属、アルカリの存在により、この酸化は促進される。

反 応 性 : 鉄、コバルト、ニッケルイオンと呈色化合物を生成する。
過酸化水素、臭素酸カリウム等の酸化性物質と反応する。
高濃度の酸化剤と接触により発火することがある。
分解するまで加熱すると有毒な硫黄酸化物(SO_x)を発生する。

避 け る べ き 条 件 : 直射日光、熱、酸化性物質との接触

避 け る べ き 材 料 : 金属類

危険有害な分解生成物 : 硫黄酸化物ガス(SO_x)

11. 有害性情報

急 性 毒 性 : 経口摂取すると悪心、嘔吐、腹痛等を起こすことがある。

ラット腹腔注射 LD₅₀ 165 mg/kg

ウサギ静脈注射 LD₅₀ 100 mg/kg

局 所 効 果

刺激性(皮膚・眼) : 眼、皮膚に対して刺激することがある。

蒸気の吸入は鼻、喉、気管を刺激することがある。

慢性毒性・長期毒性 : 長時間または継続的な接触により皮膚炎、皮膚潰瘍を生じることがある。

発 がん 性 : 本製品に使用している各成分ともIARCリストには記載されていない。

変 異 原 性 : データなし

催 奇 形 性 : データなし

生 殖 毒 性 : データなし

12. 環境影響情報

移 動 性 : 物理化学的性質からみて大気、水域、土壤環境に移動する可能性がある。

残留性/分解性 : データなし

生態蓄積性 : データなし

生態毒性

魚毒性：データなし

その他：COD_{Mn}：186,000mg/L(原液)

BOD：45,000mg/L(原液)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

容器：廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制：適用法令なし

国連分類：国連の分類の定義上危険有害物に該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件：

容器に破損、漏れがないことを確かめ、衝突、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。また、直射日光を避けるための遮光性被覆を施し、雨水による濡れを防止する。

衝突、転倒、落下等によって容器の破損、漏れ、飛散しないように慎重に取り扱う。積み込み、荷下ろし、移動、充填等の作業を行うときは必要な保護具を着用する。酸化性物質、有機過酸化物は接触混載をしないようにする。

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTTR法)	： 非該当
毒物劇物取締法	： 非該当
労働安全衛生法	： 非該当
消防法	： 非該当
大気汚染防止法	： 非該当
海洋汚染防止法	： 非該当
船舶安全法	： 非該当
航空法	： 非該当
港則法	： 非該当

16. その他の情報

引用文献

化学大辞典	共立出版
産業中毒便覧	医歯薬出版
14705の化学商品	化学工業日報社

*記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。

*注意事項は通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たに用途用法に適した安全対策を講じたうえで実施願います。

*すべての化学製品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。